

生物資源学専攻 修士課程 研究指導方針

「徳島大学大学院研究指導ガイドライン」（別添）に基づき、研究指導を行う。

当専攻の指導教員と各コース教員は、開講している科目群、「生物資源学研究」、および各コースの特別実習・特別講義・特別演習・特別研究を通じて、次のような研究指導を行う。

開講している科目群を履修することで、まず、様々な分野の課題を探求し、それを解決するために必要な能力を認識させることで自発的な学修を促す。次に、特別実習・特別講義・特別演習・特別研究によって、それぞれの特定分野に関する理解を深化させるとともに、当該分野における問題を分析して解決させることを通して、身に付けた分析力や解決能力を向上させる。

特別演習・特別研究を通じて、プレゼンテーション能力を錬成し、実践的なスキルとして身に付けさせ、研究成果を中間発表と学会発表させる。また、TA活動を奨励し、この活動を通して役割や立場に応じたコミュニケーション能力を養成させる。

日本語と英語による論理的表現力とコミュニケーション能力の向上を目指した指導を実施し、国際化に対応できる能力を身に付けさせる。

研究成果を修士論文としてまとめ、修士論文公聴会において発表させる。

研究倫理については、主指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員による研究指導において直接指導し、また、e-learning等を利用して、研究倫理観を醸成させる。

複数指導体制についての申し合わせ

・副指導教員およびアドバイザー教員は、専攻・コースの枠を超えて柔軟に選任できる。